

今年もあと1カ月となった。私の周りでもいろいろなことが起き、数々のハプニングを乗り越えたこの1年の前半をおさらいしてみよう。

1月…ワイハの金髪・ブル
ーアイはやっぱり……
だった

2月…スキノの帰りに猛吹
雪で車がスタックして
人の温かみを知る

3月…香港の博物館のボラン
ティア案内人は日本を
……と連呼する

4月…ある非農業系の学会で
現在の農場の報告をし
たら総スカンされた

5月…ある複数の政治家の勉強
会で秋田の代議士から
「転作で大豆できる
の?」と言われた

6月…転作スラッグの普及は
大地への定期預金
か?

今年の長沼は珍しく吹雪が多く、朝から交通が遮断され、多くの通学や通勤等で不自由な思いをした人が多かった。北海道では除雪車が通過した自宅前の雪を自分で処理することは常識だ。米国でいうところの自宅玄関から道路までの落葉の処理が

自分の責任であるのと同じである。

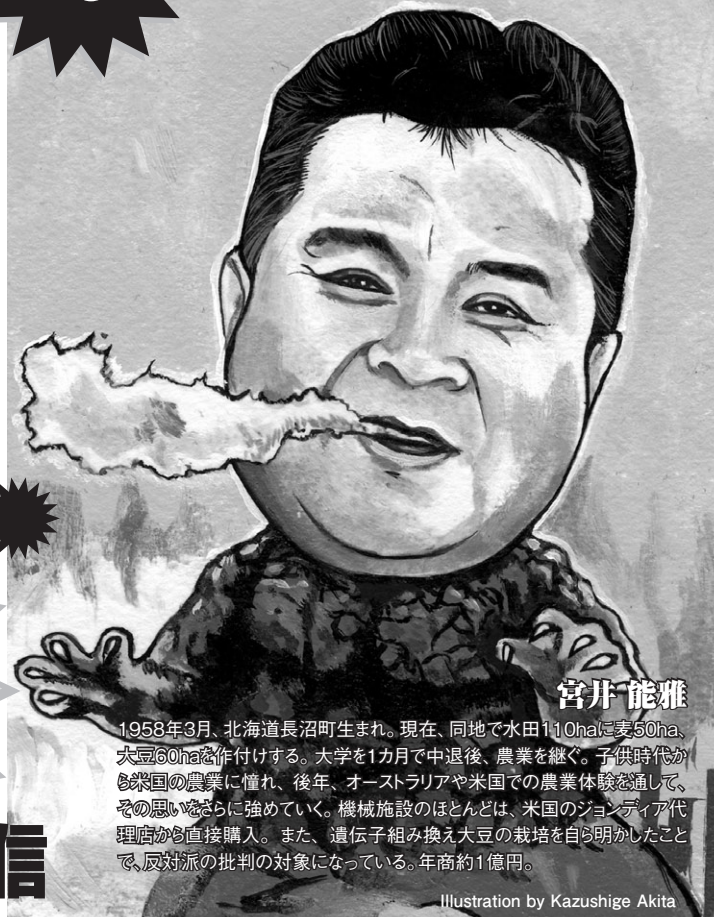
しかし、この世にはチャレンジャーが存在する。除雪車が作業の通過後に、役所の道路管理者に電話して「うちの前の雪を片付けろ!」とクレームをつける者もいる。役所は面倒なので入札した業者に電話して「対応してやってくれ」となり、自宅に帰った作業員がたった一塊の雪のために現場に呼び戻される理不尽がまかり通る。ところが、こ

で不思議なことが起きるのだ。なぜかそのようなクレマーは数年後にその家ごと物理的に存在しなくなる。なぜだろうと疑問を感じるが、農村で住めない方たちは都市に貧しい文化を含めて吸収していただけると考えるのが自然でしょう。

昭和の時代は年に数回は吹雪があり、道路は完璧に通行止めになった。学校が休みになると、それなりに無邪気に喜んだが、平成に入ってから吹雪の回数も少なくなり、道路の除雪体制も明らかに良くなった。果

「神は理由があってこの困難を作られたのだ」

Vol.67



宮井能雅

1958年3月、北海道長沼町生まれ。現在、同地で水田110haに麦50ha、大豆60haを作付けする。大学を1カ月中退後、農業を継ぐ。子供時代から米国の農業に憧れ、後年、オーストラリアや米国での農業体験を通して、その思いをさらに強めていく。機械施設のほとんどは、米国のジョンディア代理店から直接購入。また、遺伝子組み換え大豆の栽培を自ら明かしたこと、反対派の批判の対象になっている。年商約1億円。

Illustration by Kazushige Akita

オレにも 言わせる!

北海道長沼発 ヒール宮井の憎まれ口通信

私があるような大変な状況に気が付いたのは吹雪だして10時間たった朝で、外に出たら「あらびっくり!」車庫から285馬力のトラクターに装着された除雪ブレードで国道までの100mをかき分けて行くと、そこには先ほどの避難した車両がたくさん。そこで一台ずつ丁寧にワイヤーで引っ張り上げた。

救出の際、こちらの重量は10tあるので、重量差で車両が傷つく可能性を伝えたのは親切が仇とならないためだが、道路管理者と間違われて「救出するのが遅い!」とまで言われ、今に至るまで**感謝の言葉はもらっていない**でも**不満はない**。助け合うのは冬がある北海道の常識で、**明日は我が身かもしれない**のだ。とは言っても、黙って12時間耐えたドライバーが賢いのかと問えばやはり疑問符が付く。

協力以外で皆が生き残る術はない

3月3日には道東地域は発達した低気圧の影響で車が吹き溜まりに突っ込み、立ち往生して複数の子供を含む8名が亡くなった。だが本当に死に対する予防は万全だったのだからか? 本来であれば道民は雪に対してもっと敏感に対応し、子供たちを背中を通じて教えることもできた

はずだったのに。こんな悲惨なことを教訓にはしたくないと思った。

こんなこともあった。2月上旬の雪祭りの時、北見から友人が来たので数名が集まり、ススキノに向かったが、天気がグズツキだったので早々に切り上げるようになった。私は酒を飲まないのでもいつもアツシー君だが、これも自分に与えられたDNAの特徴で、酒以外で人生を酔いなさいと言う神の啓示だと信じている。不安が的中しないことを祈り南幌町の友人を送って帰るが、予想をはるかに超えて左から右へ地面と水平に吹雪いて車の通行が厳しい状態だった。四輪駆動車に乗っているの

スタックしているのは1台

の4t箱車を除きすべて**軽自動車**だ。助手席で近所のSさんは突然「バカども!」と怒り出した。彼曰く、**各自が雪をかき出して自分の車だけを脱出させる行為は愚かだ**、と。つまり、誰ひとりとして隣の車の人たちと協力して1台ずつ脱出させようとしなかったのである。あまりにも雪国に住む者として知恵がなさすぎると感じてSさんの

気持ちはずぐ理解できた。

北海道には自民党支持の共産主義者がたくさんいるのにこのザマである。猛吹雪のなか、Sさんの「**みんな協力して脱出するぞ**」という掛け声に、周りのゆとり世代の共産主義者はやっとなり理解し、まず4t車が1mくらいの吹き溜まりにスピードをつけて突破口を築き、後に続く車体の軽い軽自動車を見事に1台ずつ通過させることができた。さすが日頃からリーダーシップの模範とすべきSさんである。私は心でこう叫んだ。「神は理由があつてこの困難を作られたのだ」。

もちろんそのためにも日頃から常識を養う備えと真面目さが必要である。で、米国がTPPに関して当初、こんな吹雪で対応できない軽自動車の規格に注文をかけた理由はよく分かる。共産主義と軽自動車は消えてなくなるべきものなのだ。

その後、2kmくらい進むとまた吹き溜まりがあり、やはり1台の軽自動車スタックしていた。先ほどと同じくみんな協力して抜け出した後、若い軽自動車の運転手は「ありがとうございます」と言って去って行った。自分の車に戻ると、南幌町の同乗者が「昔あいつのオヤジにイジメられたんだ」とツブヤいた。

このような状況の場合、協力以外

で皆が生き残る術がないのは北海道のマトモな非共産主義者であれば誰でも知っている。村八分と言う言葉があるが、**北海道ではもう一つ、「吹雪の時は助け合う」を追加することになる**だろう。

そして、確かにその言い伝えは正しかったようだ。数km離れた場所での南幌町の彼の家族が吹き溜まりでスタックしてしまい、困っていたところ、先ほどの軽自動車の運転手に助けられ、彼はこう言ったそうだ。「こちらこそありがとうございます。10分前にお父さんに助けられたばかりなんです」

話は変わり、12月には**スガノ農機**が全国大会と称して**勉強会**を開催している。今年は**12月9日、10日に岡山で開催予定**である。

今まで何回か参加したが、毎回著名な農業社会とは関係ない話はとても勉強になる。たとえば米国を小馬鹿にしてはイケナイ、米国の自動車産業はどのように発展したのか、TVで有名な元政治記者の裏話などはお願ひしても聞けない内容ばかりである。今年には金髪・ブルーアイの話しかも♡ 問い合わせ先は029-886-0031。本州で言うところのコタツで丸まってかーちゃんとお喋りしてばかりいないで、世界を見ましよう!というのである。